

キャリアス就活・学生モニター（現大学3年生、修士1年生）を対象に、9月後半時点の就職意識や就活準備状況などを尋ねた。夏季インターンシップを中心としたプログラムへの参加状況や感想のほか、業界・企業研究の進め方、就職情報の入手についてなど、多岐にわたる項目を調査した。

1. インターンシップ等（※）への参加状況

- 前年同様1日以内のプログラムへの参加が主流も（86.4%）、5日間以上への参加が増加
- 平均参加社数「1日以内」6.9社→6.3社に減少。「2～4日間」「5日間以上」はそれぞれ微増

2. 参加してよかったこと、不満に思ったこと

- 参加してよかったことは「興味のある業界の知識や理解が深まった」が7割超で最多（74.8%）
- 不満点は「時間や日数が短かった」「仕事のイメージが掴めなかった」などが上位

3. 今後のインターンシップ等への参加予定

- 8割超が参加意向を示す。特に短期プログラムへの参加を希望する学生が目立つ
- 参加希望時期は「11月」「12月」など年内が多いが、年明けの参加を考えている学生も
- 参加できない企業には、過半数が「プレエントリーやマイページ登録をする」（55.0%）

4. 今後参加したいコンテンツ

- 「選考についての情報が得られるもの」（58.5%）、「企業研究が深くできるもの」（57.7%）の順
- 一方で「業界や企業の概要を理解できるもの」も過半数が選択（53.8%）

5. 就活準備イベントへの参加

- 会場型への参加が増え、オンラインとの差がさらに縮小。今後の参加意向は両形式とも年内が高い

6. 業界研究・企業研究に力を入れたい時期

- 業界研究・企業研究ともに「9月」～「12月」が前年調査を大きく上回る

7. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多（87.0%）。「各企業のホームページ（採用サイト）」（69.1%）が続く

8. SNS 利用状況

- 就活でのSNS利用、「LINE」が4割で最多（40.1%）。「X（旧Twitter）」が3割台で次点

9. 就職活動への不安

- 「とても不安」が減少も、「やや不安」を合わせ8割以上が「不安がある」と回答（計84.2%）

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

調査概要

調査対象：2027年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：842人（文系男子212人、文系女子324人、理系男子197人、理系女子109人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年9月17日～28日
サンプリング：キャリアス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリアス／キャリアスリサーチ

1. インターンシップ等への参加状況

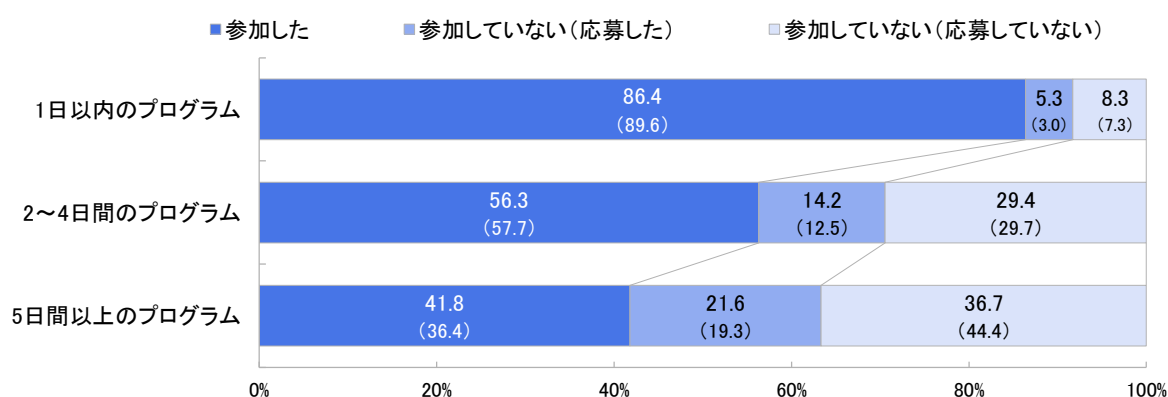
まず、インターンシップやオープン・カンパニー（以下、インターンシップ等）のデータを確認したい。

参加状況を実施日数別に見ると、「1 日以内のプログラム」の参加経験を持つ学生は今年も 8 割を超える（86.4%）。「2～4 日間」は半数強（56.3%）。「5 日間以上」に参加した学生が前年より 5 ポイント余り増加しており（36.4%→41.8%）、長期プログラムへの参加が増えている様子が見て取れる。

参加社数が多いのも「1 日以内のプログラム」だが、前年調査を下回り（平均 6.9 社→6.3 社）、「2～4 日間」「5 日間以上」がともに微増（それぞれ 2.5 社、1.6 社）。

参加時期は夏季休暇中の「8 月」「9 月」が今年も多いが、より集中度が高まっており、複数日程のプログラムへの参加がやや増えたことが影響しているとみられる。

< インターンシップ等の参加状況 >



* オンライン形式も含む

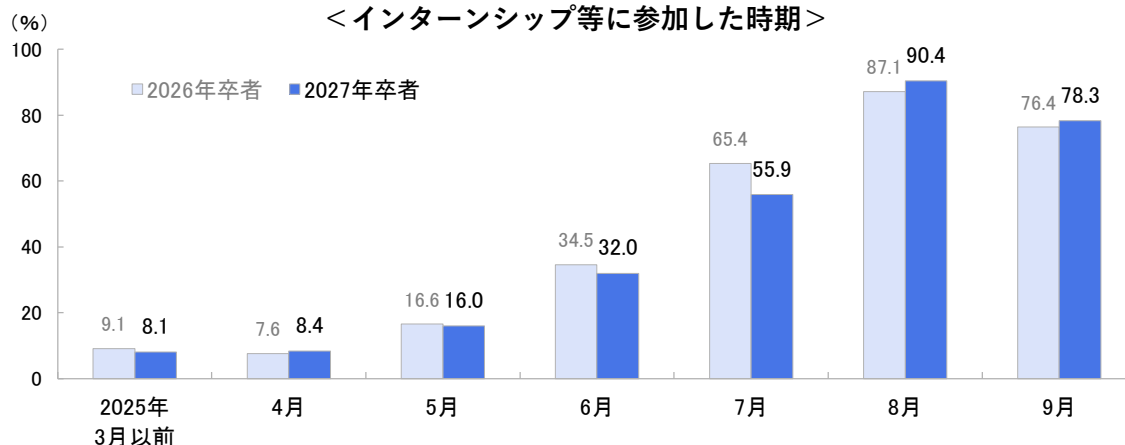
※()内は2024年9月調査の数値

< インターンシップ等参加社数／平均 >

	全 体	2026年卒者	2025年卒者	文 系	理 系
1 日以内のプログラム	6.3	6.9	6.3	7.1	4.1
2～4 日間のプログラム	2.5	2.4	2.3	2.6	2.1
5 日間以上のプログラム	1.6	1.5	1.4	1.5	1.8

※それぞれの参加者が分母

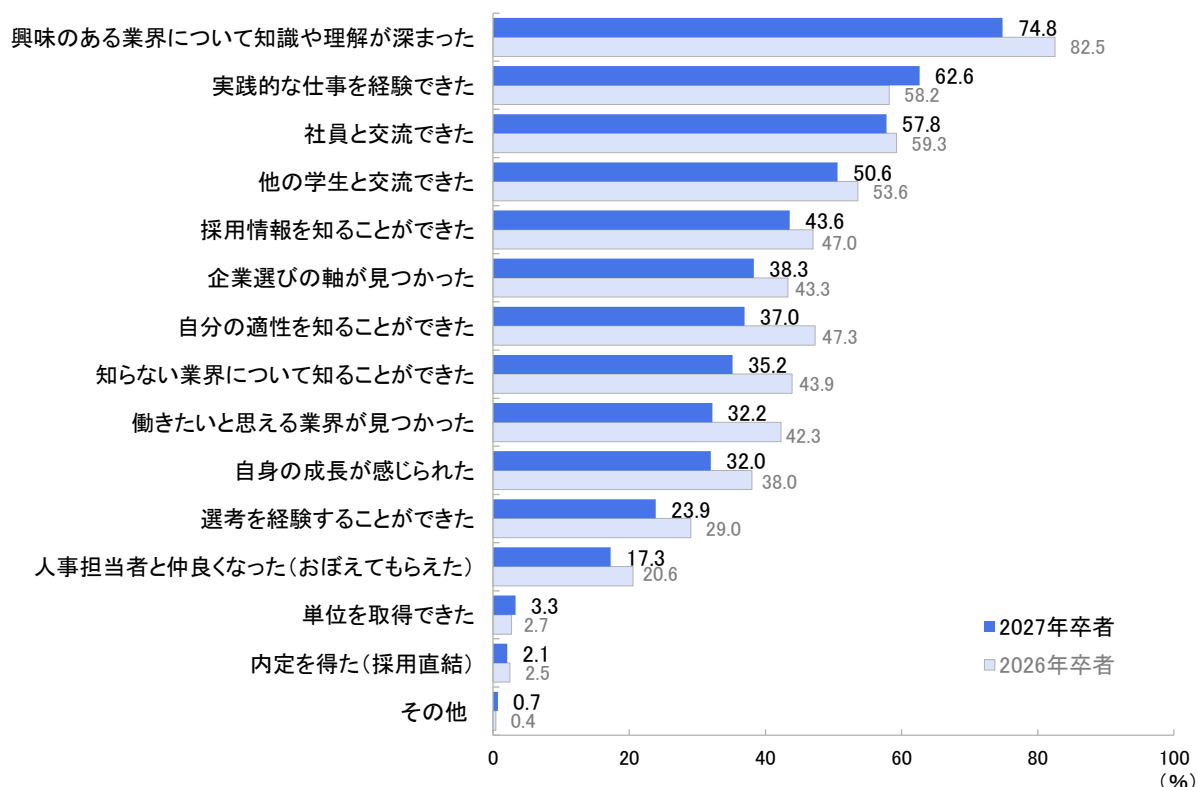
< インターンシップ等に参加した時期 >



2. 参加してよかったこと、不満に思ったこと

インターンシップ等のプログラムに参加してよかったことを尋ねた。最も多いのは「興味のある業界について知識や理解が深まった」で7割超が選んだ(74.8%)。2番目に多い「実践的な仕事を体験できた」(62.6%)は、前年調査よりポイントが増加。5日間以上のプログラムへの参加経験率が上昇したことなども影響しているとみられる。「社員と交流できた」(57.8%)、「他の学生と交流できた」(50.6%)までが5割台と高く、ワークや座談会などでの交流を通じて情報を得ている様子がうかがえる。

<インターンシップ等に参加してよかったこと>



■よい印象をもったプログラム

【対面形式】

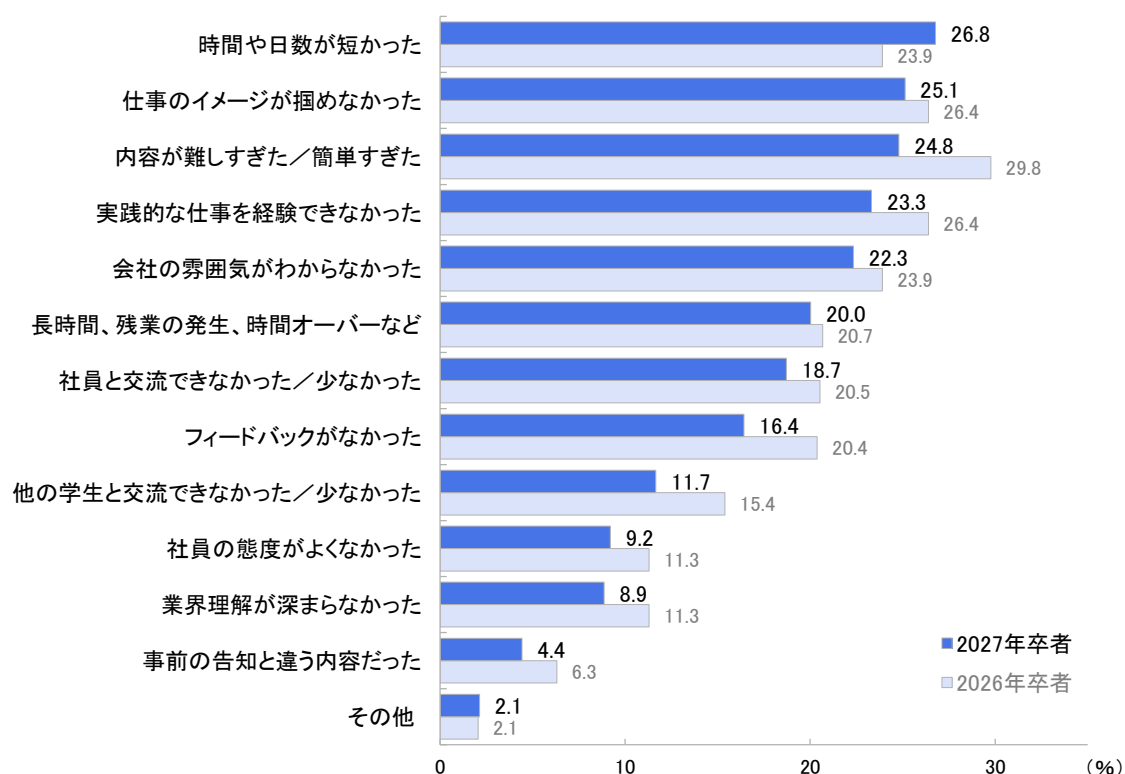
- 1日で企業説明、ワーク、グループディスカッション、座談会、懇親会と様々な体験ができ、効率よく企業についての理解を深められました。 <文系女子>
- 少人数で、一人ひとりのサポートが手厚かった。昼に様々な社員さんと食事に行き、交流できた。 <理系男子>
- 社員のフィードバックがとても丁寧だった。また鋭い質問が飛んできて、1人の社員として扱ってくださる感じた。 <文系女子>
- 実際の現場で就業体験をさせていただき、社員の方の雰囲気を知ることができた。 <理系女子>
- 周りの参加者のレベルが高く、非常に有意義な時間を過ごせたと感じたため。 <文系男子>

【オンライン形式】

- 興味のない業界だったが、わかりやすく簡潔に説明してくれたことで、関心を持つようになった。 <文系男子>
- 体験内容がとても業務に沿っていて、また、表面的な課題解決ではなく本質から解決していくプロセスや考え方を学べ、自分の成長にもつながった。 <理系女子>
- オンラインとは感じさせないほどワークの内容が濃く、社風を感じ取ることもできた。 <文系女子>
- 多数の若手社員・中堅社員に質問する機会をいただき、企業や業界、業務への理解が深められた。 <文系男子>
- オンラインでの仕事の仕方や、チーム開発の経験ができた。 <理系男子>
- 就活生の質問に取り繕わず答えてくれた。リアルな声を聞けたため、とても印象が良かった。 <文系女子>

反対に、参加して不満に思ったことを尋ねたところ、63.0%が何らかの不満を感じたことがあると回答した。具体的には、「時間や日数が短かった」という回答が最も多く、前年調査よりポイントが増加した(23.9%→26.8%)。「仕事のイメージが掴めなかった」、「実践的な仕事を経験できなかった」、「会社の雰囲気がわからなかった」などの項目も上位に挙がっている。短期プログラムへの参加が中心ということもあり、知りたい情報が十分に得られないケースも少なからずあったことがうかがえる。

<インターンシップ等に参加して不満に思ったこと>



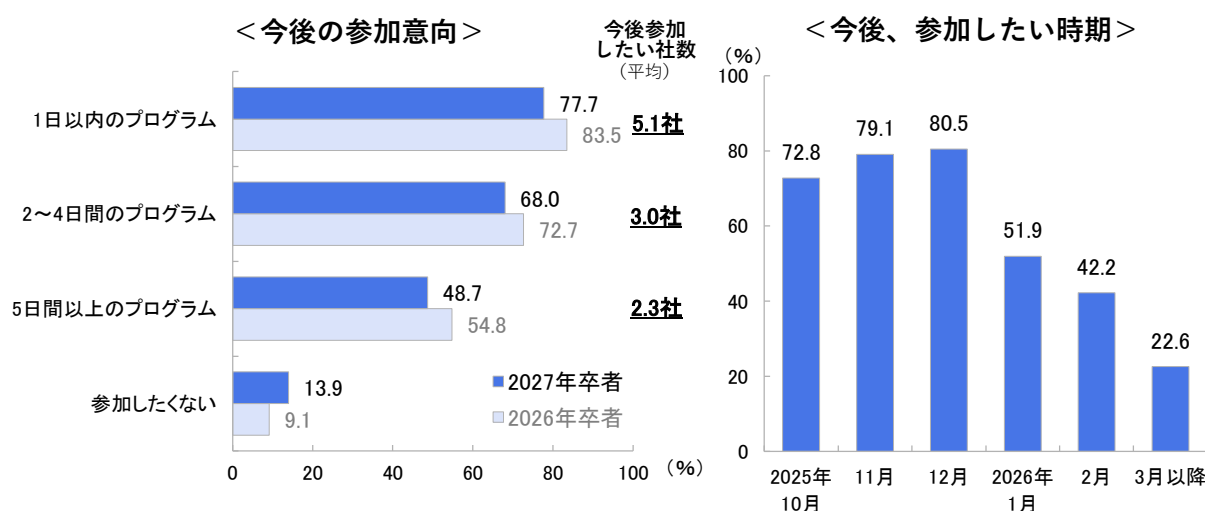
■不満に感じたプログラム

- オンラインで 3 時間程度のプログラムを行う企業が多く、なかなか社内の雰囲気を掴むことができないことが多々あった。 <文系女子>
- 対面のプログラムに参加したが、企業の説明会のみで対面の意義を感じなかった。 <文系男子>
- 会社説明会とグループワークのみで、疑問を解消する機会がなかった。 <理系男子>
- グループワーク中心のプログラムは、実際の業務内容がわかりにくい。 <文系男子>
- 事前知識が必要なことも多いので、その場合は「こういった知識を使うので、予め勉強してから来てください」など指示があるとわかりやすいと思いました。 <文系女子>
- 忖度したフィードバックしかもらえない企業があり、自分の成長や、相手企業とのズレを知るといった目的が果たせなかったと感じた。 <文系女子>
- 学生からの質問にしぶしぶ答えている雰囲気の会社は嫌だった。 <文系男子>
- 開催直前までプログラムの詳細が分からない企業がいくつかあった。事前に詳細まで知りたい。 <理系男子>
- プレゼンの準備時間が短すぎて残業しなければならなかったことがあったので、決められた時間内に終わるように、プログラムの中で十分に準備時間を確保して欲しかった。 <文系女子>
- 主催者の回線状況が悪く、話している途中で途切れて聞き取れないことがあったため、回線状況を改善するか、途切れた際に他の社員がサポートする体制を整えておいてほしい。 <文系女子>
- 交通費や宿泊費の支給がなく、参加を見送ったイベントがある。 <文系男子>

3. 今後のインターンシップ等への参加予定

今後については、1日以内の短期プログラムへの参加意欲が最も高く（77.7%）、「2～4日間のプログラム」もおおよそ7割（68.0%）の学生が参加したいと回答した。「5日間以上のプログラム」が5割近く（47.2%）と、総じて参加意欲は高め。ただし、前年同時期に比べるとそれぞれ減少しており、今後は志望に近い企業や業界に絞り込んで参加したいという考える学生もいるのだろう。

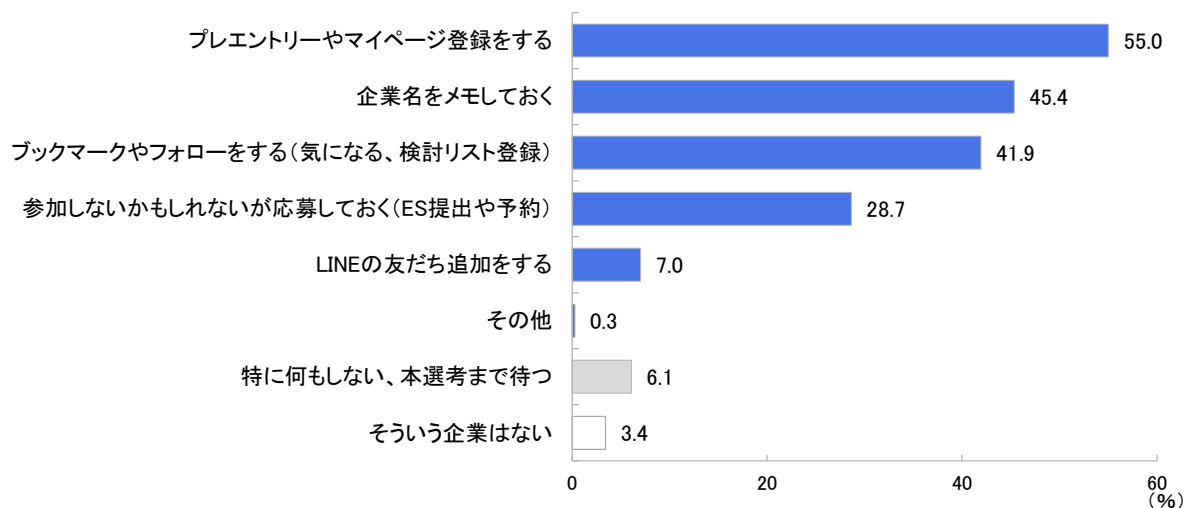
プログラムに参加したい時期は「12月」（80.5%）が最多で、「11月」（79.1%）、「10月」（72.8%）の順。現状では年内の参加を目指して活動する学生が多い。一方で、「1月」、「2月」も4割～5割の学生が選んでおり、年明け以降も継続的な参加を予定している学生も一定数みられる。



就職情報サイトなどでインターンシップ等の募集を見つけて興味を持ったものの、応募を迷う企業や、日程が合わない・満席などで参加できない企業があった場合に、どうしているかを尋ねた。最も多かったのは「プレエントリーやマイページ登録をする」で半数以上が選択（55.0%）。「企業名をメモしておく」（45.4%）、「ブックマークやフォローをする」（41.9%）は4割を超えている。

プログラムに参加できなくともそのままにせず、その企業の情報を追いやすくするためのアクションを取る学生がほとんどであり、「特に何もしない、本選考まで待つ」は少数（6.1%）。

<インターンシップ等への参加を迷う企業や参加できない企業への対応>

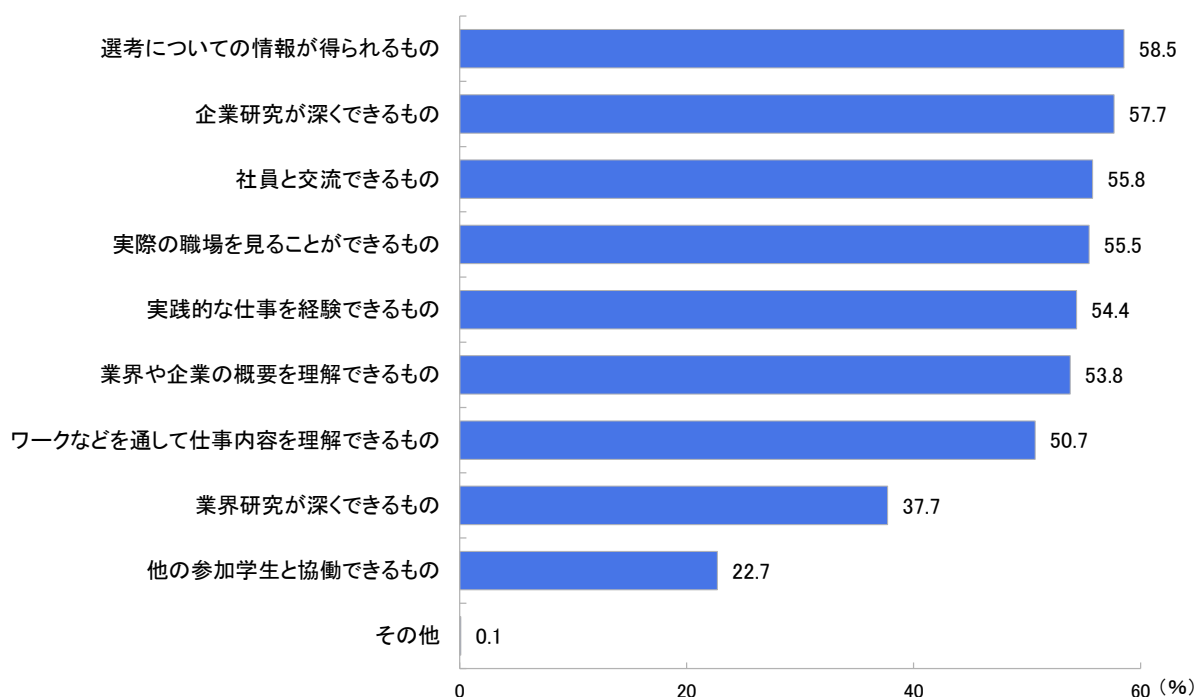


4. 今後参加したいコンテンツ

どのような内容のものに参加していきたいかも尋ねた。「選考についての情報が得られるもの」が最も多く (58.5%)、「企業研究が深くできるもの」が僅差で続く (57.7%)。本選考を意識した企業研究がメインとなりつつある様子が表れている。「社員と交流できるもの」(55.8%)、「実際の職場を見ることが出来るもの」(55.5%) などに関心が高く、勤務する社員やオフィスの様子を実際に見ることで理解を深めたいということだろう。

一方で、「業界や企業の概要を理解できるもの」も過半数が選択しており (53.8%)、これから興味・関心を広げ、新しい業界や企業について知る手掛かりとするために参加したいという学生も少なくない。

<今後参加したいコンテンツ (プログラム)>



■具体的な希望や条件など

- 夏インターンよりもっと実際の業務に近いものや、職場や工場を見学できるものがいいです。 <理系女子>
- 実際の業務を体験できるようなプログラムやグループワークなどにより仕事内容を理解できるプログラムなど。 <文系男子>
- 志望業界がかなり定まったので、その業界でどの企業が自分に合うのか企業研究をしたい。 <文系女子>
- 志望度の高くない企業については 1day の説明会に参加したい。 <文系女子>
- 業界の中で、その企業がどのような立ち位置にあるのかや、今後の展望が知れると良い。また、社員の働き方や待遇についても深く知りたい。 <理系男子>
- これまで体験したインターンでわからなかったところを埋められるようなイベントが望ましい。 <文系女子>
- 入社後に会社や仕事のミスマッチがないように、実際の職場を見るという体験は大切だと考えています。 <文系男子>
- これからは、より本選考への参加や就職を見据えた企業選びになると思うので、社会人生活を想像できるものに参加したい。 <文系女子>
- 入社した後のステップアップについてより具体的に知りたい。また、現実的なワークライフバランスについても知りたい。 <文系女子>
- 徐々に本選考が近づいてくるので、本選考につながるようなインターンは魅力的だし参加したいと感じる。 <理系男子>

5. 就活準備イベントへの参加

就職情報会社等が主催する就活準備イベント（インターン・キャリアイベントなど）への参加状況を、開催形式ごとに確認した。

「オンライン形式」のものに参加経験がある学生が全体の 8 割強で (86.8%)、「会場型」の参加経験者は 7 割強に上る (75.9%)。会場型はコロナ禍で大きく落ち込んだが、ここ数年は開催数も増え、参加経験を持つ学生は年々増加。両者の差はかなり縮まっている。

一人あたりの平均参加回数も「会場型」は増加傾向が見られるが、物理的な参加しやすさも相まって、「オンライン形式」の方により多く参加している（それぞれ 5.8 回、3.1 回）。

<就活準備イベントの参加経験>

	全 体	2026年卒者	2025年卒者	文 系	理 系
会場型に参加	75.9	69.9	67.5	81.3	62.6
オンライン形式に参加	86.8	89.6	89.8	86.7	87.2
いずれも参加していない	4.6	4.9	4.6	3.1	8.5

(%)

<就活準備イベントの参加回数>

	全 体	2026年卒者	2025年卒者	文 系	理 系
会場型の参加回数(平均)	3.1	2.9	2.7	3.2	2.8
オンラインの視聴回数(平均)	5.8	5.8	6.2	6.0	5.3

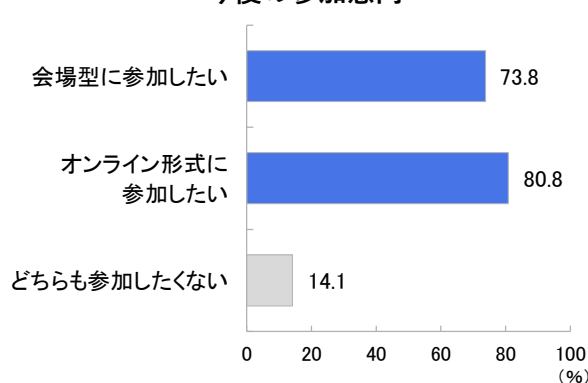
(回)

※それぞれの参加者が分母

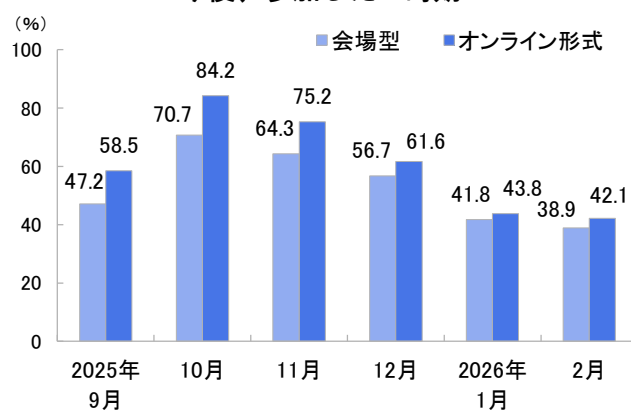
会場型は会場に足を運んだ回数。オンライン型は同日に複数社を視聴しても 1 回とカウントした

今後の参加意向についても形式ごとに尋ねた。「会場型」が 7 割強 (73.8%) で、「オンライン形式」が 8 割を超えるなど (80.8%)、形式によらず引き続き参加を予定している学生が多い。参加を希望する時期は、会場型・オンライン形式ともに秋から年内の割合が高い。年内に積極的にイベントに参加して、志望業界や企業を絞っていきたいと考える学生も少なくないようだ。

<今後の参加意向>



<今後、参加したい時期>



■就活準備イベントについて

○自分が何をやりたいのか、何にやりがいを感じるのか、どんな業界や職種が合うのかまだ分からないので、色々なイベントに参加して見つけたいです。 <理系女子>

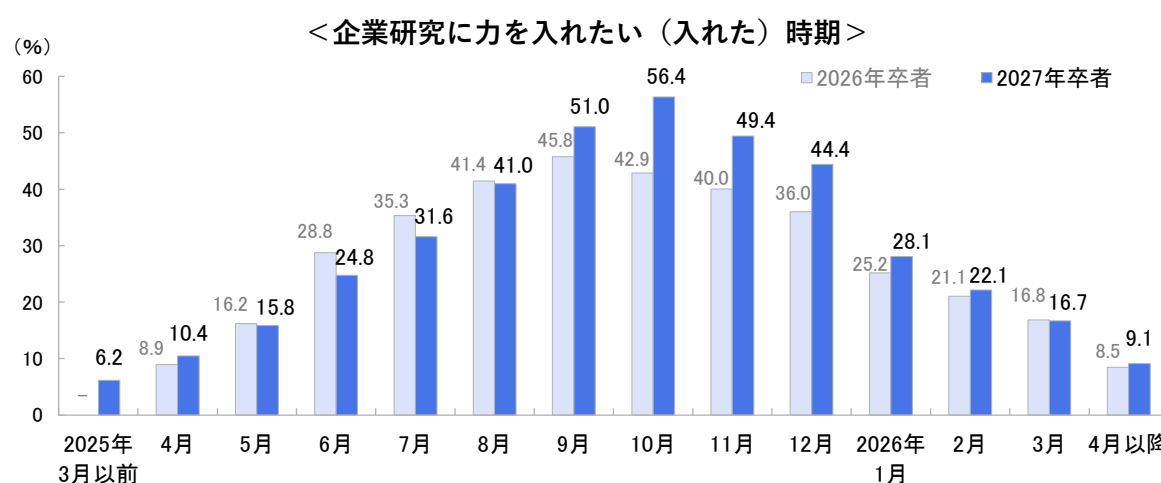
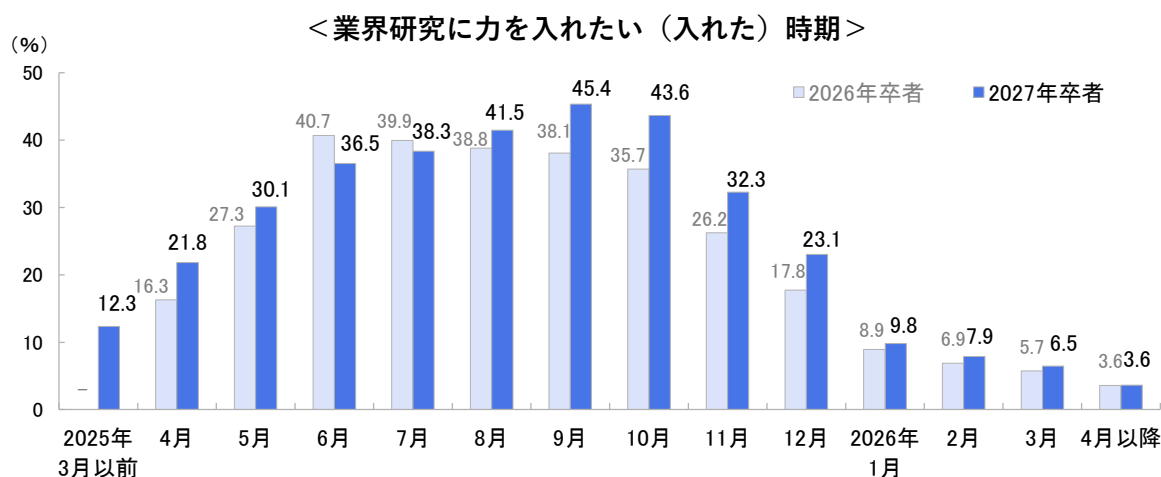
○多くのイベントに参加して情報収集をして業界や企業についての研究をしていきたい。 <文系男子>

○対面でのイベントになるべく参加し、社風や社員の方の雰囲気を知りたい。 <理系男子>

6. 業界研究・企業研究に力を入れたい時期

業界研究と企業研究について、それぞれ力を入れたい時期（入れた時期）を複数回答で尋ね、前年調査と比較した。

業界研究・企業研究ともに「9月」～「12月」の数字が前年に比べ大きく伸びているのが目立つ。夏季インターンシップ等への参加を経て志望業界や企業が固まった学生が、早期選考などを意識して、本格的に対策に乗り出そうとしているとみられる。学生のコメントからも、秋から年内にかけて活発に情報収集を行い、本選考に備えたいという意向が汲み取れる。



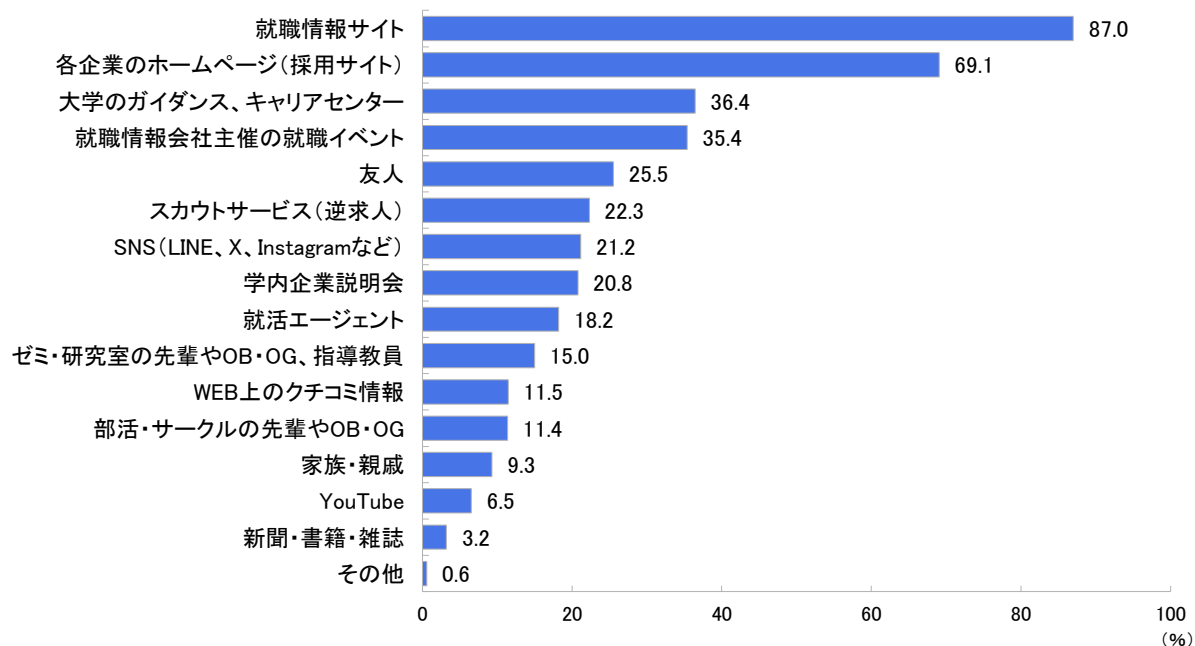
■業界研究・企業研究のプラン（進め方）

- 業界を絞る時期が夏で、そこそこ絞れてきたので、企業ごとに深掘りしていき志望動機を固める時期がこれからだと感じている。 <文系男子>
- 説明会などを聞いた上で、もう一度業界・企業研究をしてから秋冬のインターンに参加したい。 <文系女子>
- 就活の軸はほとんど決まっていたので、それに沿った業界・企業研究を行った。まだ時間があるので、今後は少し違った業界を見て、より軸を明確化したい。 <理系男子>
- 業界研究は年内のうちに終わらせ、企業研究は選考のあるところから順に進めていきたい。 <理系女子>
- 4～6月に業界を絞って、夏にインターンに参加した企業や興味を持った企業を、10～12月に研究しようと思っている。 <文系女子>
- 早期選考が11月頃から始まるので、それまでには業界・企業研究を終わらせたい。研究方法としては、企業のホームページや企業の人との面談などを通じて行いたいと考えている。 <文系男子>

7. 就職活動に関する情報の入手先

就職活動に関する情報の入手先を尋ねた。「就職情報サイト」が9割近くに上り(87.0%)、圧倒的に多い。また「各企業のホームページ(採用サイト)」はおよそ7割(69.1%)と、よく利用されている。「大学のガイダンス、キャリアセンター」(36.4%)と「就職情報会社等主催の就職イベント」(35.4%)はともに3割台。以下はポイントが分散しており、情報収集に利用されているツールや媒体は多岐にわたる。

＜就職活動に関する情報の入手先＞

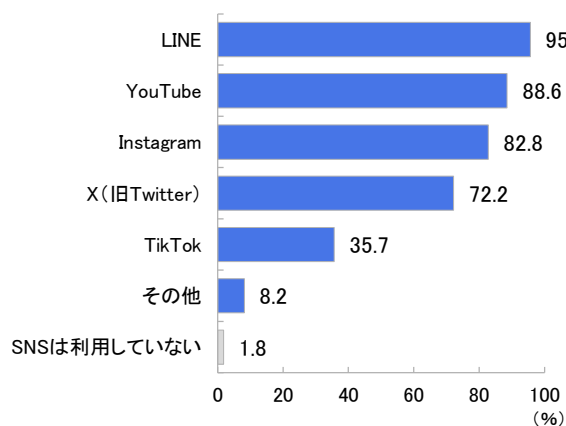


8. SNS 利用状況

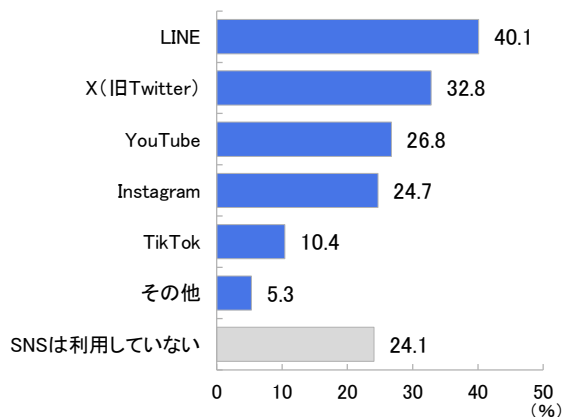
SNS の利用状況を、日常生活と就職活動とに分けて尋ねた。まず日常生活では、「LINE」が9割を超え(95.7%)、「YouTube」(88.6%)、「Instagram」(82.8%)、「X(旧 Twitter)」(72.2%)なども総じてポイントが高く、多くの SNS を日常的に利用していることがわかる。

就職活動においても「LINE」の利用率は高く、40.1%が利用していると回答。続く「X(旧 Twitter)」はおよそ3割(32.8%)、「YouTube」「Instagram」は4人に1人程度が利用。今後、就職活動が進む中で、それぞれのツールで利用割合が高まっていくものと見られる。

＜日常生活で利用するSNS＞



＜就職活動で利用するSNS＞

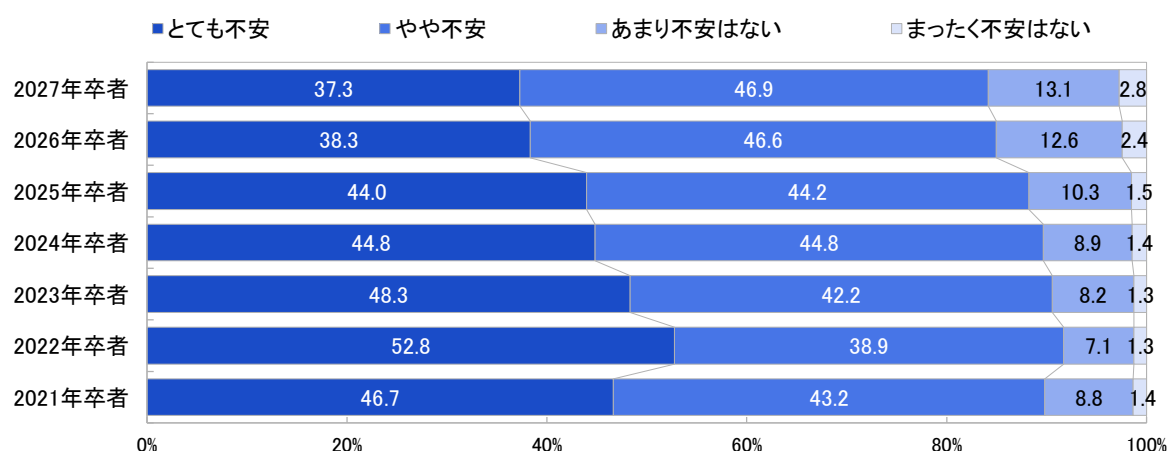


9. 就職活動への不安

自身の就職活動に不安を感じるかどうかを尋ねた。「とても不安」と「やや不安」を足し合わせると 8 割を超え (計 84.2%)、大半が不安を感じていると回答した。ただ「とても不安」に着目すると、この 5 年で 15 ポイント余り減少しており (52.8%→37.3%)、売り手市場が続いている影響が感じ取れる。

実際寄せられたコメントを見ると、内定を 1 つも取れないかもしれないといった声は少数にとどまり、内定獲得への危機感を抱く学生はそう多くないようだ。一方で、早期化が進む中で乗り遅れないで進められるかといった進捗状況や、自己分析や業界・企業研究など就活の進め方といった、目の前の活動への不安が目立つ。多数の企業の中から自分に合う企業を判断できるか、という先々の不安を訴える声も見られた。

<就職活動への不安>



■具体的な不安

- 早期化により、チャンスは残り僅かになってきているような気がしており不安です。 <文系女子>
- 本当に自分が働き続けられる職場を見極められるか不安です。 <理系男子>
- 流れは分かっているが、優柔不断で動き出せないことが悩み。 <理系女子>
- 情報量が多く、自己分析や業界研究に不安を感じることもありますが、多くの企業を知ることで自分の可能性を広げられる貴重な機会だと思っています。 <文系男子>
- 自分の軸がまだ見つからず、親に子供時代のことを聞いてもわからないと言われ、困っている。 <文系女子>
- まだ面接対策などがまったく進んでいないため、面接に対して上手く受け答えをすることができるのかなど、とても不安を感じている。 <文系男子>
- 学業との両立が大変なのと、スケジュール管理がとても不安です。応募したい会社の情報を追って、プログラムに参加するために提出が必要なものを準備して。バイトとの兼ね合いもあり忙しい日々です。 <理系女子>

■就職活動に関して、今知りたいことや欲しい情報など

- インターンシップの選考で企業は何を見ているのか、そもそもその参加の実績が就職活動本番で有利になるのか知りたい。 <文系男子>
- 資格の保持がどれだけ有利に働くのかを知りたい。 <理系男子>
- 就職活動は正解がないため、今の進捗や進め方でいいのか。 <文系女子>
- 行きたいと思っている企業が早期選考を行っているかわからないから知りたい。 <理系男子>
- 周りと比較してしまい、嫌になる。情報共有してくれない友達もいて怖い。皆がどのくらい就活が進んでいるのか知りたいし、負けたくない。 <文系男子>
- 企業説明会や職場見学で、私服 OK や私服でお越しくださいと書いてあるところがあるのですが、本当に私服でいいのでしょうか。 <文系女子>